

<p>目的・目標</p>	<p>【目的】 インクルーシブ教育システムの更なる推進のため、高等学校と特別支援学校の双方の生徒が同じ授業に臨むなど、発展的な交流及び共同学習の在り方とその実現に向けた方策を研究し、『兵庫型インクルーシブな学校運営モデル(兵庫型モデル)』の構築を目指す</p> <p>【目標】</p> <p>①既存分教室においてこれまで実践されてきた交流及び共同学習の取組を継承しつつ、継続的な取組につながるような実施方法や内容、評価方法等について学校運営連携校において実践する。</p> <p>②「兵庫型インクルーシブな学校運営モデル」の構築を念頭に、学校運営連携校における高等学校と特別支援学校の強みを生かした学びの充実に向けた学校運営の工夫や校内体制の整備等の方策を検討し実践する。</p>			
<p>学校運営 連携校</p>	<p>兵庫県立武庫荘総合高等学校(総合学科) 兵庫県立阪神特別支援学校分教室(知的障害)</p>	<p>一体型</p>	<p>カリキュラム・ マネージャー</p>	<p>元県立高等学校校長 (県立特別支援学校での管理職経験あり)</p>

取組概要

- ①学校運営連携校の指定とカリキュラム・マネージャーを中心とした連携協議会の実施(年3回)
 - 【目的】交流及び共同学習の実施時期、実施内容、高等学校と特別支援学校の生徒のグループ活動(班編成等)に係る検討、授業後の振り返りシートの内容検討 等
 - 【構成員】カリキュラム・マネージャー、高等学校、分教室担当者(内容により担当者は増減する)
 協議した内容については学識経験者にも共有し、指導助言をもらう
 - 【内容】学校設定科目における実施内容の確認、育成したい力や教育課程への位置づけ、シラバスへの記載方法等についての協議、生徒についての情報共有等 ※その他日常的な打合せ等を平均月2回程度継続して実施
- ②年間を通じた交流及び共同学習の継続的な実施
 - 【内容】既存の交流及び共同学習の継続的な実施に加え、多様な学習内容での交流及び共同学習の実施
- ③自治体独自の事業との連携(年2回)
 - 【目的】連携校での実践を共有するとともに、県内におけるインクルーシブな学校運営モデルの拡充に向けた有効性や拡充方策等を協議する
- ④先進地域視察(年1回)

① 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討

【事例1】

- (1) 教科:産業社会と人間(学校設定科目) 年間約60h実施
(スピーチや企業インタビュー等様々な活動を通し、自己理解や将来の進路実現に向けた学習に取り組む) 「総合的な探究の時間」(分教室)
- (2) 対象学年:高等学校(1年生)・分教室(1年生)
- (3) 内容:「私の学校生活」をテーマに、「なりたい自分」に向けて今後の学校生活をどのように送りたいか、そのための目標等について考え、参加者全員の前で2分間スピーチを行う
- (4) 工夫点等:自分の言葉で発表することに苦手意識のある生徒については、代替手段の活用も含めた表現方法を提示し、自分ができるやり方で実施できるようにする



【事例2】

- (1) 教科:工業実習(選択科目) 「職業」(分教室) 年間約70h実施
- (2) 対象学年:高等学校(2年生)・分教室(2年生)
- (3) 内容:機械系、電気系、インテリア系の3系列の実習を行う
- (4) 工夫点等:日常の打合せ等で授業担当者同士(高等学校・分教室)が授業内容や生徒の実態についての情報共有を行う、実習前に「オリエンテーション」、「実習安全講義」を実施



② 現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

ア 学校運営連携校間における連携

連携協議会以外の場面でも、交流及び共同学習に係る内容や生徒の情報について日常的に打合せを実施

イ 出前授業の実施(総合高等学校の教員による出前授業の実施)

- 【内容】①分教室2年生を対象としたプログラミング学習(microbit)の出前授業を実施
⇒プログラミングの基礎・基本の学習(今後の交流及び共同学習に向けた準備)
- ②分教室3年生を対象とした3DCAD、3Dプリンタの出前授業を実施
⇒3DCADでネームプレートを作成し、3Dプリンタで造形

ウ 外部人材の活用

- 【内容】①分教室生徒を対象に、ロボメイツ運営会社によるロボット組立、プログラミングの学習
- ②高等学校生徒を対象に人権講演会を実施:テーマ「誰もが安心して暮らせる共生社会の実現をめざして」

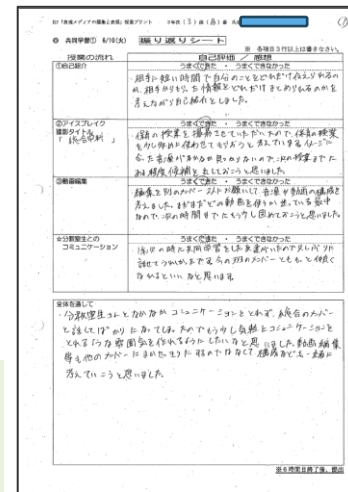


本事業の成果

- 「交流及び共同学習」の実施科目(教科)や実施回数を大幅に増やしたことで、学校生活において授業以外でも生徒同士が交流する姿が見られるようになった。
⇒「明らかに生徒同士の距離が縮まった感がある」(カリキュラム・マネージャー)
- カリキュラム・マネージャーがいることで、交流及び共同学習の企画・運営がスムーズに行え、既存の取組以外の授業においても継続的に実施することができた。双方の教員の負担軽減にもつながった。
- 実技系の交流及び共同学習を継続的に実施したことで、分教室の生徒の職業選択の幅が広がりつつある(興味関心の広がり、分教室教員にとっての生徒理解の深まり)。
- 高等学校教員の指導力が向上した(特別支援教育の視点を取り入れた授業の工夫、専門教科に関する知識理解の深まり等)。

※授業後の振り返りアンケートから一部抜粋

- ・1年次の時に共同学習をした友達がいたので**久しぶりに話せて嬉しかった**です。今のメンバーともっと仲良くなれるといいなと思います(高校)
- ・**お互いに**安心できるような雰囲気を工夫した(高校)
- ・総合のメンバーと話してばかりだったので**もう少し気軽にコミュニケーションをとれるような雰囲気を作れるようにしたい**(高校)
- ・人が仕事をしているのに声をかけて**空気を読めないところがあった**ので3年生の交流学习ではそれがないように心がけ**努力しようと思いました**(分教室)
- ・初めてのカレーを作り、あたふたしていた所を助けてもらったりしたので、武庫荘生の皆様には**感謝しています**(分教室)



授業後振り返りシート(一部)

●課題
◎今後の展望

- 座学中心の科目(特に大学受験に関係する科目)における「交流及び共同学習」の実施に難しさがある
- 「交流及び共同学習」に係る評価について(評価の有無、方法、基準等)
- 休み時間や放課後に気軽に交流ができる機会を増やせるような「場」の提供(共有のフリースペース等)
- ◎「交流及び共同学習」の実施科目、単元について、教育課程やシラバスに明記し、双方の教員及び生徒への意識づけを図る(年間を通じた取組としての定着)
- ◎新入生オリエンテーションで、「交流及び共同学習の意義」や、「インクルーシブ社会の実現に向けて」等の説明機会を設ける
- ◎「交流及び共同学習」の更なる実施可能教科、単元の検討(例:書道、理科等)